

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名：気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者
アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム

申請課題名：アレルギー専門コメディカルによる喘息・アレルギー疾患自己管理・
長期管理指導の質の向上、医療の効率化に関する研究

調査研究代表者氏名：赤 澤 晃

評価コメント

- ・アレルギー患者教育についての現状とエデュケーター活躍の現状について検討している。マニュアルの作成も行った。
- ・PAEの有用性は今後さらに高まるであろう。
- ・質の高いエデュケーターが養成され、医療現場や学校での指導実績が証明されてきた。
- ・医師・ナースの90%以上が必要性を認めているPediatric Allergy Educator(PAE)の養成をさらに進めた点は評価できる。
- ・現在の本邦の医療制度を考えると、慢性のアレルギー疾患の患者教育を担うのは看護師が最も現実的であるが、一般の病院の看護師は非常に多忙で余力に乏しい。もし、専門のコメディカルスタッフを養成できればそれが最も理想的である。本研究班の努力によって限られた範囲ではあるが、資格制度の実現化に踏み出したことは高く評価したい。
- ・最近の看護師の専門性と言う視点で多くの分野で認定看護師制度があり、チーム医療においても重要な役割を果たし、診療報酬上も評価されていることから、特に患者の自己管理が重要であるアレルギー分野でも時宜にかなった研究である。
- ・コメディカルの質の向上を図るためにEラーニングシステムを構築した。これらのシステムの完成により、患者の状態の改善、薬物使用の減少がどのようであったかの調査が必要であろう。
- ・これを更に広げるためのバリエーションは高いかもしれないが、他の慢性疾患でもそのような需要は高いと思われるので、タイアップして行政に働きかけるといったことも考えられる。仮に実現しなくても、本研究が問題提起の起源となればその社会的意義は大きい。
- ・現在のDPCとしての医療システム実施施設において病院経営・運営上、本エデュケーター認定の取得がプラスとなるような診療報酬体系に結びつけて行くにはどうするかについても考慮しながら、勧めていく必要がある。そのためにもエデュケーターの存在が患者のみならず、施設においても経営上にも有用であることを示す検証をしてほしい。
- ・PAEの効果は認められるが、看護師の場合は、看護協会の認定看護師制度との連携も必要ではないかと思われる。

・今後はPAEの公的なシステムの中での位置づけを明確にして取得した資格・スキルを十分に発揮できる環境を整備するのが大きな課題であろう。

・今後更に発展させるためにはPAEに対するサポートや、経済的なメリットが得られるか否かにかかっている。

・立派な教材が出来ていると評価したい。これが一般的に広く活用される様御配慮ありたい。

・小児の気管支喘息の場合は、学校で接触する養護教諭が最も身近な存在と思われるので、養護教諭も本計画の対象に入れるよう考えていただきたい。

・健康福祉センター等において、保健師・看護師のエducatorを配置し、地域アレルギー相談の効果を高めるとか、環境再生保全機構でエducatorを雇用し、地域に派遣する等の応用についても検討が進むことを期待する。